

論文内容の要旨

報告番号		氏名	中西 昭登
Predictors of Proximal Interphalangeal Joint Flexion Contracture After Homodigital Island Flap			
(和訳) 指尖部切断に対する指動脈島状皮弁をもちいた 再建術後のPIP関節屈曲拘縮の予見因子の検討			

論文内容の要旨

- 【目的】**指尖部切断に対する再建方法として様々な皮弁法があるが、いずれの方法も術後合併症としてPIP関節の屈曲拘縮が報告されており、その頻度は8～29%である。Oblique triangular flapにおいても術後の合併症としてPIP屈曲拘縮の報告は多く、原因として様々な要因が考えられる。この研究の目的は、指尖部切断に対する指動脈島状皮弁(Oblique triangular flap)をもちいた再建術後のPIP関節屈曲拘縮の予見因子を前向きに調査することである。
- 【方法】**2006年から2013年までに指尖部切断に対してoblique triangular flapで再建した44指39症例を対象とした。術者・術式は統一した。屈曲拘縮の原因となりうる5つの因子(年齢、受傷指、受傷機序、皮弁前進距離、創部治癒期間)と術後1年以上経過した時点でのPIP関節伸展角度との関係について調査した。単回帰分析と多重回帰分析をもちいて5つの因子がPIP関節屈曲拘縮に及ぼす影響について評価した。
- 【結果】**最終伸展角度は平均16度であった。単回帰分析で年齢、受傷指、創部治癒期間に有意差が認められた。しかし皮弁前進距離には有意差が認められなかった。多重回帰分析では年齢、創部治癒期間が独立因子として示された。
- 【結論】**高年齢の患者と創部治癒期間が延長する症例でPIP関節屈曲拘縮の発生する危険性が高い。このような症例では早期に可動訓練や装具治療を導入することが、予防の手立てとなるかもしれない。